
今日の日

2026年6月22日 ～ 6月28日

翻訳 ハイステン 悦子

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています
※翻訳・編集以外でも協力して下さっている兄弟姉妹がいます

御茶の水キリストの教会

6月22日(月)

私たちとともにいる者の方が多い

聖書朗読 列王記第二 6:8～17

すると彼は、「恐れるな。私たちとともにいる者は、彼らとともにいる者よりも多いのだから。」と言った。
Ⅱ列王記 6:16

彼らは敵に包囲され、逃げ場のない窮地に陥っていました。その朝、それを見たエリシャの召使いはこう叫びました。「ああ、ご主人さま。どうしたらよいのでしょうか。」その声には彼が抱く恐怖が如実に表れています。

私たちも時に敵に取り囲まれ、身動きが取れない状況に追い込まれることがあります。友人の病気や自分自身の深刻な健康上の問題、経済的な不安、背後から忍び寄るような心ない言葉など、どこを見ても脅威や危険が潜んでいるように感じられます。出口はどこにもないように思え、不安ばかりが募っていきます。

これから紹介する聖書の言葉、賛美歌、そして祈りが私たちの目を開いて、ずっとそばにいてくれた、目には見えない援軍が見えるようになり、あなたの心から恐怖を追い払う助けとなりますように。

『ですから、私たちは勇気を失いません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。』(Ⅱコリント 4:16～18)

讃美歌第二編 43 せかいの のぞみになる主よ

祈り 主よ、私たちの目を開いて、私たちとともにいる者は、彼らとともにいる者よりも多いことを見えるようにしてください。御国を見上げ、見えないもの、永遠にこそ目を留めることができますように。イエス様によってお祈りいたします。アーメン。

テキサス州 グランベリー / クリス・フリゼル

6月23日(火)

神の力と特権

聖書朗読 歴代誌第一 13:1～14

「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、わたしの道は、あなたがたの道と異なるからだ。——主の御告げ——
イザヤ 55:8

あなたは、神の力と特権があなたの人生に宿るとは真にどういうことなのか、じっくり考えたことがありますか。

I 歴代誌 13:1～14 やIIサムエル記 6:1～11を読むとき、私たちはしばしばウザに注目します。彼が神の箱に触れて死んだという出来事です。

しかし、より深く読み解くと、もっと深いことが分かります。神の箱を持ち帰るというのはダビデの考えであり、神様の命令ではありませんでした。ダビデは主に相談することなく、これが神様のみこころなのか、神様のタイミングなのかを問うこともありませんでした。

また、ダビデには、神様の聖なるご臨在の象徴をダビデの町に持ち込むことが何を意味するのかについて、神のみこころをはっきりとは分かってはいませんでした。神の箱は主のご臨在にふさわしい畏敬、従順、そして主への畏れを欠いたまま運ばれました。

神の箱をエルサレムに置くことは、神様から与えられる特権であり、当然の権利ではありませんでした。

同じことが今日の私たちにも言えます。私たちの生活の中で神様の力を体験することは自然に起こるものではありません。それは謙遜な従順と、神様の聖さに対する深い畏敬の念から生まれるのです。

讃美歌第二編 142 わかき われらは

祈り 主よ、あなたの力と特権が、あなたのみこころに従うことで私の人生に入ってくことをいつも心に留めさせてください。整えられた心、耳を傾ける霊、そして自分の道よりもあなたの道を求める生き方をもって、あなたのご臨在を敬うことを教えてください。イエス様の御名によって。アーメン。

フロリダ州 ジャクソンビル / アンドレア・ニモンズ・スミス

6月24日(水)

神は力のない者を助けられる

聖書朗読 歴代誌第二 14:9～15

あなたがたが主とともにいる間は、主はあなたがたとともにおられます。もし、あなたがたがこの方を求めるなら、あなたがたにご自身を示してくださいませ。
II 歴代誌 15:2より

世界の重みが自分の肩にのしかかっていると感じたことはありますか。戦いの中で自分は一人だと感じたり、自分はあまりに弱く、周囲の悪の勢力があまりに強いと感じたりしたことはないでしょうか。近所の大きないじめっ子のような存在に、いつまでも打ち負かされてしまうのではないかと恐れたことはありませんか。多くの人の目には、その日、戦場におけるアサ王とその軍勢は、敵軍に比べて圧倒的に少数に映りました。

しかし、神様が彼らの味方だったので、実際には彼らの方が敵軍を圧倒する多数派だったのです。私たちがどれほど弱く見えても、周囲の悪の勢力がどれほど強く見えても、強大な力を持つ者たちに立ち向かう無力な者を助けてくださる、神様に勝るお方は他にいません。私達が神様に頼り、神様から力をいただくとき、私たちは人生の困難を乗り越えることができます。私たちが神様の側に立つならば、たとえどれほど多くの人々が私たちに敵対しようとも、私たちは常に多数派です。

人の手にはあまりに大きく、あまりに困難な課題を私に与えたまえ。そうすれば、私はついにはあなたに寄り頼むようになり、寄り頼むことによって、自らの力を見出すであろう。

—ウィルバー・ハンフリー・ファウラー* (*編注:詩人 1894-1949)

讃美歌 267 神はわがやぐら

祈り 主よ、力の強い者に対して力のない者を助けてくださる方はあなただけです。私たちを助けてください。私たちはあなたに拠り頼みます。主よ、あなたは私たちの神です。人間にすぎない者に、あなたに並ぶようなことはできないようにしてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 アビリーン / ナンシー・ファーガソン

6月25日(木)

この宇宙的視点

聖書朗読 ヨブ記 37:14～24

家よりも、家を建てる者が大きな榮譽を持つのと同様に、イエスはモーセよりも大きな栄光を受けるのにふさわしいとされました。家はそれぞれ、だれかが建てるのですが、すべてのものを造られた方は、神です。ヘブル 3:3～4

すべての家はだれかによって建てられます。家が自然と建つことはありません。あらゆる構造物や発明品には、それらを成立させるための、より偉大な存在が不可欠です。『すべてのものを造られた方は、神です。』究極的に言って、すべての造り主なる神様は、永遠なる『わたしはある』というお方です。地上の岩石に刻まれたメッセージや、宇宙の光年という距離を超えた広大な永遠の中に神様はおられます。あらゆる存在が、自らを説明し得る確かな根拠を求めて叫んでいるのです。

しかし、この宇宙を全て説明することはできないのです。人間的に説明しようとするのでそれ以上踏み込むことのできない壁に突き当たってしまいます。しかし、そこで終わりではありません。人間の理解の限界を超えた場所に、これらすべてを形作られたお方が立っておられます。私たちの説明が及ばない静寂の中で、信仰が声を上げます。信仰によって、私たちは、私たちを取り囲む万物をその御手によって造られた“永遠の建築主”を信頼し、そのお方を知り、神様においてこそ、すべてのものが真の土台と目的を見出すのだという確信の中に安らぎを得るよう導かれます。

薄暗き未知の彼方に 神は影の中に立ち ご自身の民を見守っておられる
—ジェームズ・ラッセル・ローウェル* (*編注:アメリカの詩人 1819-1891)

讃美歌 90 ここも神のみくになれば

祈り 神様、どうか私の目が開かれ、あなたの存在を示す証拠が、あなたの畏るべきご臨在を深く理解する光をもって、私の霊を照らしてくださいように。イエス様のお名前によって。アーメン。

ウィスコンシン州 ヒルズボロ / アル・コーネル

6月26日(金)

なんと力強い神でしょう！

聖書朗読 詩篇 33:4～8

正しい者たち。主にあって、喜び歌え。賛美は心の直ぐな人たちにふさわしい。
詩 33:1

友人たちは私のことを整理整頓が得意だと言います。息子たちは私を強迫性障害と呼びます。夫は賢明なので、私にレッテルを貼ろうとはしません。本当のところ、私はすべきことをリストを作ると落ち着き、リストは忙しい生活に秩序をもたらすのに役立っています。私にとって最高のリストは、書き出した“やることリスト”ではなく、声に出して言うリストです。

毎晩、暗くなってから犬たちと散歩する時、私は神様が私にしてくださったすべてのことに対して感謝を声に出して言います。ほとんど毎晩、私は犬たちと長い距離を歩かなければなりません！ 詩篇33:1で詩篇作者がこう書いているのを聞くと、私は彼に共感を覚えます。『主にあって、喜び歌え。賛美は心の直ぐな人たちにふさわしい。』4節から8節には、神様がなさったことが列挙されています。私はこういうリストが大好きです！

神様はすべてのことにおいて真実です。世界は神様の恵みに満ちています。作者の心からは思いやりと驚きが溢れ出ています。さあ今、私たちの助けであり盾であり、喜びの源である主を賛美しましょう。

聖歌 604 のぞみも消えゆくまでに

祈り 父よ、あなたの恵みを至る所で見るできるよう助けてください。
あなたが私を心に留めてくださるように、私もあなたの愛を心に留めることができますように。イエス様の御名によって。アーメン。



テネシー州 マクウェン / シャロン・フォースター

6月27日(土)

真の賛美

聖書朗読 詩篇 34:1～5

主よ。あなたの恵みが私たちの上にありますように。私たちがあなたを待ち望んだときに。
詩 33:22

私たちの賛美の表現方法は異なります。賛美は、声高らかに行われることもあれば、静かに行われることもあります。背中に暖かな日差しを感じたり、空にかかる虹の彩りを見た時には、「神様、ありがとうございます」と素朴な言葉になるかもしれません。グランド・キャニオンの断崖に立った時のように、畏敬の念とともに、ほとぼしり出ることもあれば、生まれたての赤子を腕に抱く時のように、優しく穏やかなものになることもあります。賛美はそれを捧げる人が形作るものなのです。

私が敬愛するある著者は、真の賛美と利己的な快樂とを対比させています。自己中心的な快樂は常にもっともっとと求め続けます。私たちは自分自身を満たそうと努めますが、決して満ち足りることはありません。昨日私たちを幸せにしてくれたものが、今日にはもう満足を与えてくれなくなっているのです。しかし、私たちが霊と真理をもって神様を賛美する時、私たちは主をあがめ、賛美は広がりを見せます。そして、喜びを受け止める私たちの器もまた大きくなっていくのです。

今度、子どもが初めての一步を踏み出す姿や、卒業生が壇上を歩く姿、あるいは公園で手をつないで歩く老夫婦の姿を目にしたときは、少し立ち止まってください。そして、愛と喜び、そして美しさの真の意味を私たちに示してくださった神様を心から賛美しましょう。神様をほめたたえましょう！

聖歌 480 輝く日を仰ぐとき

祈り 愛する神様。私たちが自然に、他者の人生に、私たち自身の人生の中で働いておられる神様のみわざの中に、神様を見出すことができますよう助けてください。そして、神様を賛美することができますように。私たちの賛美が神様にふさわしくありますように。私たちの主、救い主イエス様の御名によって、アーメン。

サウス・カロライナ州 コロンビア / マーク & ブレンダ・ヤング

6月28日(日)

味わい見つめよ

聖書朗読 詩篇 34:8～14

あなたのみことばは、私の上あごに、なんと甘いことでしょう。蜜よりも私の口に 甘いのです。
詩 119:103

神様が人間を形造られた際、「味蕾(味覚を感じる器官)あれ」と言われたかもしれません。実際、味蕾は極めて重要です。神様は『見るからに好ましく食べるのに良いすべての木を生えさせ』、アダムとエバに色彩と食感、味わいに満ちた世界を与えられました。

味蕾は口の中の縁の下の力持ちとも言えます。それは、甘味、塩味、酸味、苦味といった人生の様々な味わいを識別するために設計された微細で精巧なセンサーです。この味蕾の恩恵を最も受けるのは乳幼児で、1万以上の味蕾を持っています。神様はその卓越した知恵で、栄養と成長のために、初めからこうした受容体を設計されたのです。

ですから、聖書の中で、味わうという行為が神様を喜び楽しむことの比喩として用いられているのも不思議ではありません。『主のすばらしさを味わい、これを見つめよ。』(詩 34:8)神様の御言葉がもたらす霊的な栄養は尽きることなく永遠です。私たちは御言葉を糧として生き、その中に留まり、御言葉ゆえに平安のうちに人生の最期を迎えることができるのです。

神様の御言葉は豊かな味わいに満ちています。励まし、挑戦し、警告し、正し、力づけます。どんな時にも魂を養います。私たちが聖書への飢えを失いせんように。私たちの心が日々、御言葉の真理を渴望し、蜜よりも甘美なその味わいを心から喜び楽しむことができますように。

聖歌 496 主と主のことばに

祈り 愛する主よ、豊かで満ち足りた糧である御言葉に感謝します。身体が食物を必要とするように、私たちの魂も主の真理を渴望します。私たちが御言葉を求め、その知恵を味わい、御言葉を通して成長できますように。私たちの心の空虚な場所を御言葉で満たし、どんな時にも導いてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テネシー州 ナッシュビル / ジョシュ・バーネット